



# 動労千葉

85. 4. 1

No. 1904

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五〇六（公衆）〇四七二二二七二〇七

# 拠点職場：津田沼破壊攻撃を許すな

## 権力の介入・弾圧を狙う謀略的 手口を全労働者のまえに暴露せよ



津田沼電車区を焦点に、権力の介入と弾圧のひきだしを狙った謀略的攻撃が開始されている。われわれは、敵の反動的意図をみぬき、津田沼支部を先頭に85春闘と結合した闘いで、あらゆる組織破壊攻撃を打ち破る決意を明らかにするものである。



### 計画的で悪質な組織破壊攻撃

3月17日未明、津田沼電車区構内に留置中の電車4本に、約千枚の「国労ビラ」が貼られた。これに対し、国労津田沼電車区分会は「分会員の行動ではない」旨明らかにするとともに、直ちに抗議声明を発表した。

われわれは「ビラ貼り」そのものについて、もちろん否定するものではない。当局のあらゆる攻撃と対決し、要求を獲得するための意志表示の手段として重要な職場抵抗闘争の一つである。

しかし、今回の「ビラ貼り」は国労を装った何者かが電車にビラを貼ったという事実について、はつきりみすえなければならぬ。

これは、権力の介入、弾圧をひきいれ、当局の職場管理体制強化のひきだしを狙った、計画的で悪質な謀略的組織破壊攻撃であり、断じて許すことはできない。

### 動労「本部」革マルの 通敵行為を許すな

この間、津田沼電車区所属の動労千葉、国労組合員と、東京・中野電車区の動労「本部」組合員との間で「カーテン」の開閉をめぐる対立が続いている。

「カーテン」の開放を要求する当局の「職場規律」攻撃に屈した動労「本部」革マルは、「国鉄として残すための逆包囲網形成のため」と称し、「カーテン」2枚を開放する「カーテン闘争」なる「たたかい」を展開している。

動労中野支部の内田某は、「カーテン」を閉めることを求めた国労津電組合員との口論について、「暴力事件」をデッチ上げ当局にタレこんだ。本社は、これを口実に津田沼電車区の監査を行い、当該国労組合員に「処分」攻撃を加える一方

「カーテン3枚（全部）開放」を強制し、いまなお管理者を駅、ホーム等に動員し、監視し弾圧体制を続けている。

まさに、動労「本部」革マルの行為は労働者を売り渡し、職場管理体制の強化ひきだしを狙った意図的なものといわなければならない。

### 事態の本質は明らかだ！

さらに、「カーテン問題」「ビラ貼り」に加え、3月26日には構内留置中の電車1両の「車内広告用紙」13枚が燃やされる「事件」も発生している。こうした一連の事態は何を意味しているのか。そうした一連の事態は何を意味しているのか。すなわち、津田沼電車区に権力を介入、常駐させ、戦闘的拠点職場をつぶそうとする攻撃にほかならない。

「カーテン問題」「ビラ貼り」によって誰が弾圧され、利を得る者は誰なのか。

津田沼電車区の労働者に敵対している者は誰か。津田沼電車区職場の戦闘性を破壊したいと願っている者は誰なのか。

津田沼電車区労働者から忌み嫌われている動労「本部」革マル・海宝、嶋田らは、わが組合員の追及に「ビラ貼りをやったのはお前らだろう」という一方、掲示では「一部国労組合員がやった」と断定し、馬脚をあらわしてしまっている。

しかし何よりも、津田沼の戦闘的労働者に対して「妄想患者」「精神病院に入れ」社会から隔離せよ（津田沼電車区から抹殺せよ）と主張するほかならぬ革マル・海宝の思想性に事態の本質をみてとることが出来るだろう。

われわれは、「三鷹」「下山」「松川」事件をとおして、レッドページ、定員法が強行された痛恨の歴史をいまこそ教訓化し、さらに団結をうち固め、いかなる攻撃をも粉碎して闘いぬく決意である。